

『社会で活躍する力と学士力』に関するアンケート結果

保育・教職センター

目 的

教育、保育、および福祉職に就職した卒業生（卒業後 2 年以内）における学士力に関連する能力について、卒業生自身による評価およびその就職先による評価によって獲得状況の傾向を明らかにする。

方 法

調査方法：修得した学士力の活用状況に関する調査を web アンケートによって実施した。

調査内容：質問項目は、一般教育科目において身に着けるべき「学士力」に関する 6 項目、キャリア科目において身に着けるべき「学士力」に関する 3 項目、専門教育科目において身につけるべき「学士力」に関する 2 項目、計 11 項目とした。卒業生においては「卒業後、以下の能力や知識をどの程度活用できていますか?」、就職先においては「卒業生は現在、以下の能力や知識をどの程度身につけていますか?」という問いに対して、「1.できていない」「2.あまりできていない」「3.どちらともいえない」「4.ややできている」「5.できている」の 5 件法で回答を求めた。

実施時期：2025 年 1 月～2025 年 3 月

調査対象：教育、保育、および福祉職に就職した卒業生（卒業後 2 年以内）265 名、およびその就職先である小学校（26 校）、こども園（33 園）、幼稚園（54 園）、保育所（100 園）、および福祉施設（54 園）とした。

回答状況：卒業生による回答は 16 名（幼稚園 6 名、保育所・保育施設 6 名、福祉施設 4 名）であった。また、就職先別の回答数（回答率）は、小学校 1 校（3.8%）、こども園 3 園（9.1%）、幼稚園 5 園（9.3%）、保育所 14 園（14.0%）、福祉施設 6 園（11.1%）であった。

結 果

就職先の評価として、他者理解やコミュニケーション能力、社会規範の遵守などに関する内容については能力があると回答する傾向がみられた。一方、情報や知識の理解・活用する能力については、十分に獲得しているとは言えないことが示唆され、昨年度以前の傾向と同様の結果であった（図 1）。

卒業生の自己評価については、「どちらともいえない」、「できない」という回答が多い傾向が就職先からの回答よりも多くみられるが、他者理解やコミュニケーション能力、社会規範の遵守などに関する内容については、比較的、能力があると回答する傾向が見られた（図 2）。

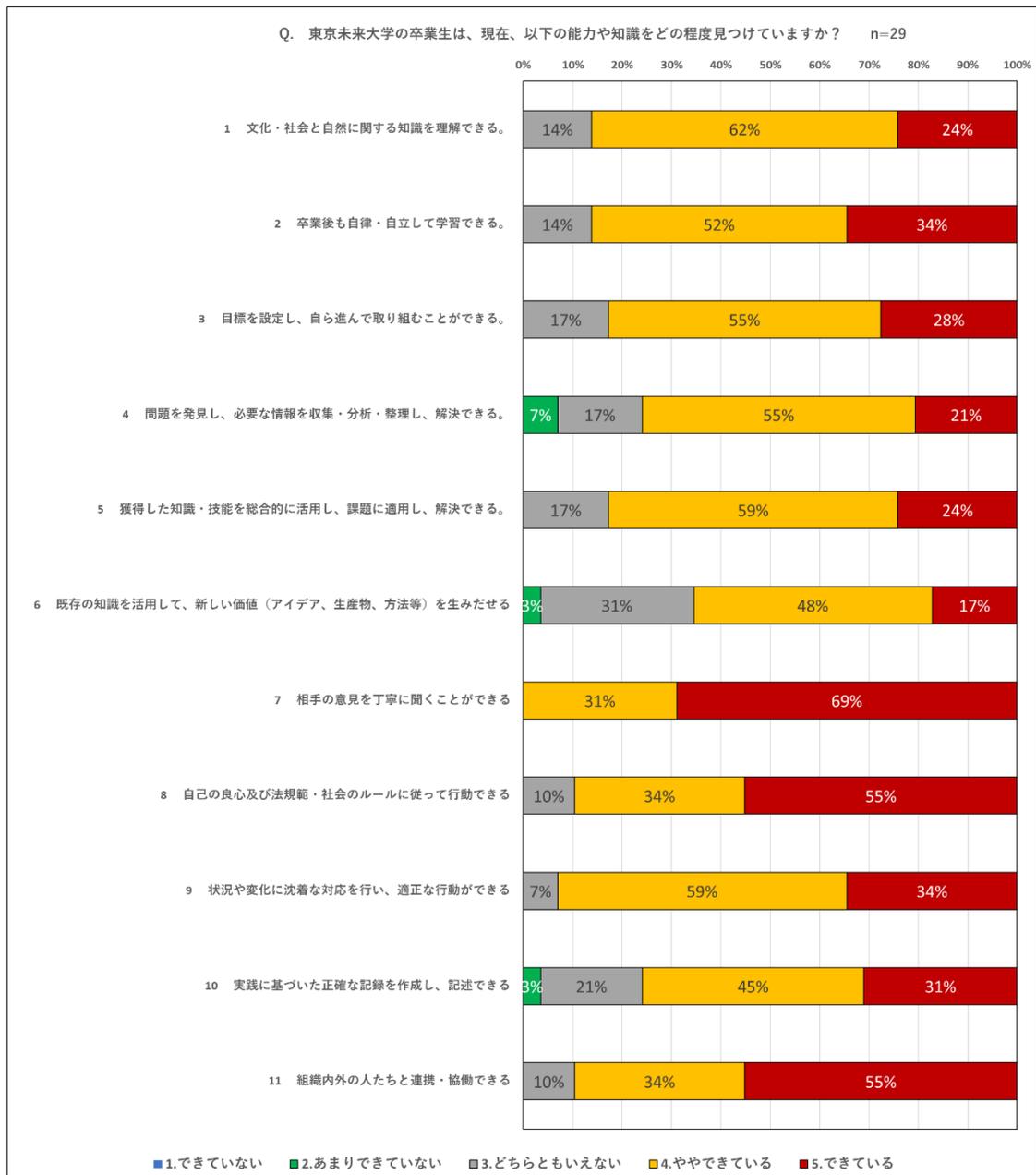


図 1 就職先による卒業生の学士力の活用に関する評価

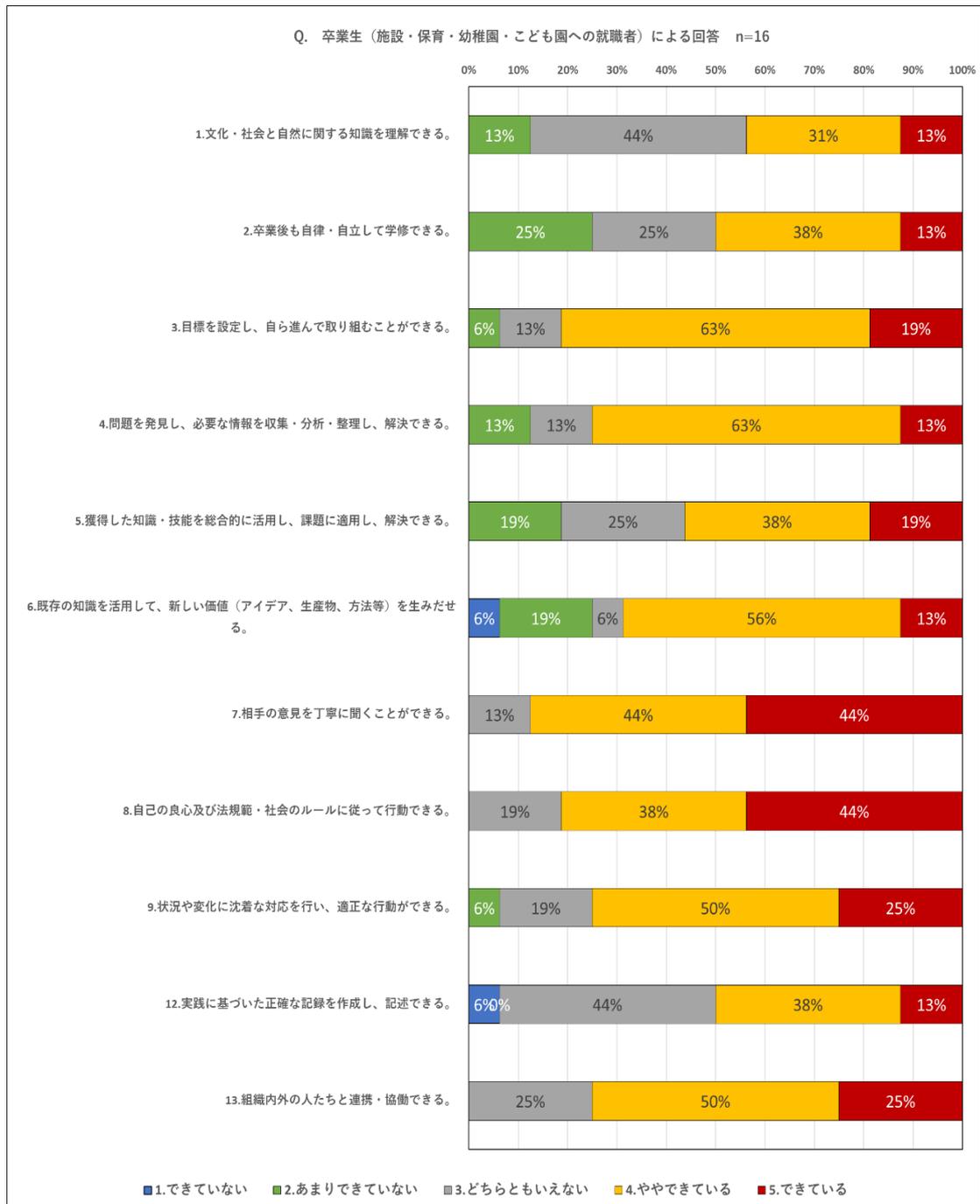


図2 卒業生による学士力の活用に関する自己評価